

先天異常 I

授業概要

先天異常に関する最新の分子レベルの情報を含めた基礎知識と一般のおよび特殊な研究方法、それらを用いた研究の現状などについて、講義・セミナー等において主に実際の研究事例を通して学び、さらに、皮膚科領域についての特論をオムニバス形式で学ぶ。

担当教員

大谷 浩（主担当） 教授・発生生物学
森田栄伸 教授・皮膚科学
嘱託講師

一般目標 **general instructional objectives**

1. 先天異常の概要を理解する。
2. 先天異常に関する研究法の概要を理解する。
3. 先天異常の発症機構に関する現在の研究状況を把握する。
4. 遺伝的要因の関与する皮膚疾患の病因へのアプローチ法を理解する

行動目標 **specific behavioral objectives**

1. 先天異常の分類、頻度、原因などを説明できる。
2. 先天異常に関する主な研究法とその応用例を説明できる。
3. 原因遺伝子の解明された遺伝性皮膚疾患の遺伝子解析法及びその病態を説明できる

成績評価法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

参考文献

O'Rahilly & Müller, Human Embryology & Teratology, 3rd ed. Wiley-Liss, NewYork, 2001

その他、項目ごとに適宜関連論文を示す。

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	担 当
1	先天異常学概論	大谷 浩
2	器官系の主な先天異常 1（中枢神経系・頭頸顔面部）	〃
3	器官系の主な先天異常 2（筋・骨格系）	〃
4	器官系の主な先天異常 3（内臓系）	〃
5	器官系の主な先天異常 4（感覚器系）	〃
6	先天異常研究の方法論 1（疫学、個体レベル）	〃
7	先天異常研究の方法論 2（組織、細胞、分子レベル）	〃
8	実験奇形学と生殖発生毒性試験 1	〃
9	実験奇形学と生殖発生毒性試験 2	〃
10	特論：組織形成期における生活習慣病の素因形成	〃
11	遺伝性皮膚疾患特論 1 遺伝性疾患の遺伝子解析法	森田栄伸
12	遺伝性皮膚疾患特論 2 変異遺伝子が及ぼす蛋白質機能変化の評価方法	〃
13	遺伝性皮膚疾患特論 3 遺伝性皮膚疾患の臨床と病態解析 1	〃
14	遺伝性皮膚疾患特論 4 遺伝性皮膚疾患の臨床と病態解析 2	〃
15	先天異常学特論	嘱託講師